



Shizuoka Prefecture Strategic Plan 2025-2028

静岡県総合計画
2025 - 2028
概要版

静岡県企画部企画課

〒420-8601 静岡市葵区追手町9番6号

TEL 054-221-3285 FAX 054-221-2542
HP <https://www.pref.shizuoka.jp/>

Check!



総合計画詳細は
こちら

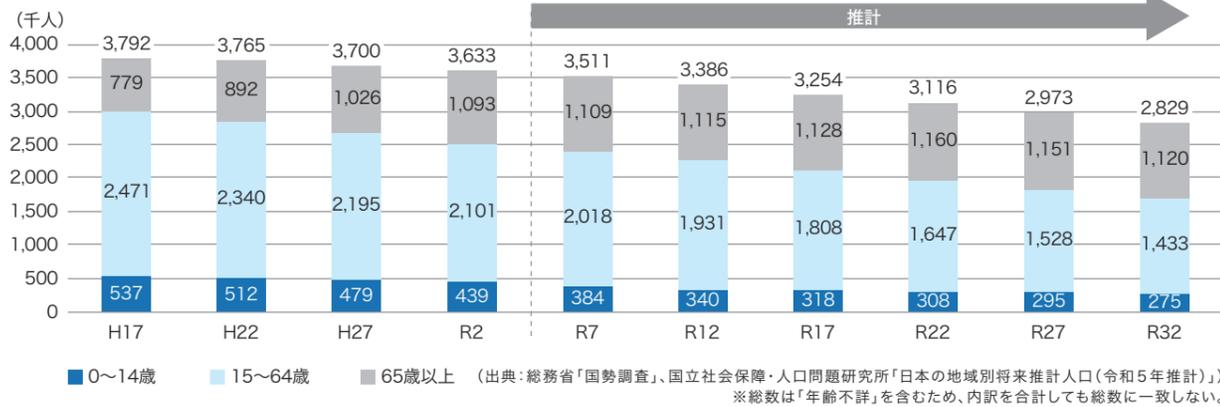
しずおか
ウェルビーイング
プラン

時代潮流

人口減少の進行 2050年静岡県の人口はピーク時の約4分の3に減少予測

静岡県の人口は2007年の約380万人をピークに減り続け、2050年には約283万人に減少する見込みです。将来は3人に1人以上が高齢者となる社会が予想されています。この主な原因は、出生数が死亡数を下回る「自然減」と、若者が進学や就職を契機として首都圏へ移ってしまう「社会減」です。毎年約6千人の若者が首都圏へ転出しており、地域の将来を担う世代の流出が大きな課題です。今後は、人口減少を「抑制する対策」に加え、デジタル技術の活用や多様な人材の活躍促進など、人口減少社会へ「適応する対策」が求められます。

図表1：静岡県の人口（年齢階層別：H17～R32）



静岡県の強みとポテンシャル



全国屈指の「ものづくり県」

自動車やバイクなどの輸送用機械のほか、次世代産業の集積も期待されています。



温暖な気候が育む豊富な食材

お茶やみかん、わさびなどの多種多様な食材が国内外で高く評価されています。



豊かな自然環境

富士山や駿河湾、温泉などの豊かな自然は産業を支え、移住先としても魅力的です。



新たな地域資源の活用

プロスポーツやアニメ、お酒などの新たな資源を活用した取組が広がっています。



健康寿命全国トップの「健康長寿県」

男女ともに全国1位(2022年)! 健康寿命の延伸は自立した自分らしい生活に繋がります。



陸・海・空の交通ネットワーク

高速道路や新幹線、港湾、空港など全方位の優れた交通ネットワークを有しています。

静岡県の目指す姿



Ⅱ-1 子育て・教育

Ⅱ 豊かな暮らし



こどもの主体性を尊重し、健やかな成長を社会全体で支える「こどもまんなか社会」の実現や、未来を切り拓く力を育む教育などを進めます。

- こども・若者の意見聴取・反映
- 結婚から子育てまでの切れ目ない支援
- 社会的養護とこどもの貧困の解消に向けた対策
- 個別最適な学び・協働的な学び・探究的な学びの深化
- 教員の資質向上・働き方改革や教育DXの推進 など

Ⅱ-2 健康福祉

Ⅱ 豊かな暮らし



住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、医療提供体制の確保・充実や、健康寿命の延伸、自分らしく暮らせる長寿社会づくりなどを進めます。

- 医療・介護・福祉人材の確保・育成
- 生涯を通じた健康づくりの推進
- 地域包括ケアシステムの深化・充実
- 障害のある人への支援
- 困難や生きづらさを抱える人への支援、自殺対策の推進 など

Ⅱ-3 暮らし文化

Ⅱ 豊かな暮らし



豊かに暮らせる社会の構築に向け、誰もが尊重し合える共生社会の実現や、多様な働き方と活力ある地域の推進、スポーツや文化・芸術の振興に取り組みます。

- 多文化共生県の実現
- ジェンダー平等の推進や性の多様性理解の促進
- 持続可能で活力あるまちづくりの推進
- スポーツによる地域と経済の活性化
- 地域資源を活かした文化芸術の振興
- 世界に誇る文化遺産の保存と活用 など

行政経営

徹底した行財政改革の推進

行財政改革の徹底的な推進や、デジタル技術を活用した行政の生産性向上、県有資産の最適化などに取り組みます。

健全な財政運営の堅持と
ファシリティマネジメントの推進

DXの推進

最適な組織運営

多様な主体との連携

(3) 中部地域

目指す姿

広域ネットワークが創り出す、人も魅力も集まる中枢地域

主な取組

- 富士山静岡空港の利活用促進
- 新県立中央図書館の整備
- 大井川鐵道の復旧支援
- 港の利用促進・機能強化(清水港、焼津漁港)

(4) 西部地域

目指す姿

先端技術と自然が奏でる、新たな価値を創造する地域

主な取組

- 次世代自動車産業・航空関連産業の振興
- 遠州灘海浜公園(篠原地区)の整備
- 原子力防災対策の推進
- 沿岸域津波対策の推進

I-1

産業

I 未来を創る力



イノベーションや次世代産業の創出・振興や、中小企業の成長支援、産業人材の確保・育成、農林水産業の競争力強化などに取り組みます。

- スタートアップ支援
- デジタル人材の確保・育成
- 企業誘致・定着の推進
- 農林水産業の生産性向上や人材の育成など
- 中小企業の経営力向上、経営基盤強化

I-2

環境・エネルギー

I 未来を創る力



豊かな自然環境を将来世代へ引き継ぐため、脱炭素社会や循環型社会の構築、豊かな自然環境の保全と継承に取り組みます。

- 再生可能エネルギーの導入拡大
- 健全な水循環と生活環境の保全
- 徹底した省エネルギー対策の推進
- 生物多様性と自然環境の保全 など
- 廃棄物適正処理の推進

I-3

観光・交流・インフラ

I 未来を創る力



地域資源を活用した観光振興や、積極的な国内外との交流促進、道路や港湾、空港などの交通インフラの強化に取り組みます。

- 高付加価値旅行の推進や来訪者の受け入れ環境の充実
- 道路ネットワークや港湾の強化、生活交通の確保
- 移住・定住や関係人口、二地域居住の促進
- 富士山静岡空港の利用促進 など
- 地域外交の推進

III-1

防災・安全

III 県民の安心



県民の安全・安心な暮らしを確保するため、防災・減災対策や防疫対策、安全な生活の確保に取り組みます。

- 危機事案への対応能力の強化
- 感染症や家畜伝染病への対応
- 地域防災力の強化
- 犯罪対策や交通事故防止対策、安全な消費生活の推進、健康危機対策など
- 地震・津波・火山対策や風水害・土砂災害対策

地域ごとの目指す姿



(1) 伊豆半島地域

目指す姿

豊かな自然と元気な観光産業などが輝き、人が人を呼ぶ持続可能な地域

主な取組

- ① 伊豆地域の観光活性化
- ② 温泉などの地域資源を活かした二地域居住の推進
- ③ 伊豆半島における防災の推進
- ④ 伊豆縦貫自動車道やアクセス道路の整備

(2) 東部地域

目指す姿

日本のシンボル富士山を彩り、人々と産業が花開く地域

主な取組

- ① 次世代産業の振興 (ファルマバレープロジェクト、CNF 関連産業、先端農業)
- ② 新たな文化施設を核とした文化ネットワークの構築
- ③ 世界遺産富士山の保全
- ④ 沼津駅周辺や沼川新放水路の整備

デジタル技術の進展

生成AI等の人口知能や、IoT、ビッグデータ解析などの革新的なデジタル技術が急速に進展し、県民の暮らしやビジネスの形を大きく変えるDX(デジタル・トランスフォーメーション)の重要性が社会全体で広く認識されています。

デジタル技術を活用し、人口減少下にあっても成長していく持続可能な社会への変革が期待されています。

地球規模での気候変動

温室効果ガスの増加により、気温や海面の上昇、農作物の不作、自然災害の増加など社会に深刻な影響が懸念されています。日本でも2050年までに排出を実質ゼロにするカーボンニュートラルを目指すことを宣言し、目標の実現に向けた取組を推進しています。

国際情勢の不安定化

ロシアのウクライナ侵攻や中東地域の緊張などで国際情勢が不安定化し、先行きの見通しが難しくなっています。また、エネルギー価格の上昇やインフレ、為替の急激な変動が県民の暮らしや企業経営に大きな影響を与えています。

2025年度の県政世論調査では、半数以上の県民が消費者物価上昇に伴う実質賃金の低下などで「暮らし向きが苦しくなっている」と感じています。

静岡県における課題

急速な社会変化の中で、静岡県は多くの課題に直面しています。これらの課題にスピード感を持って取り組み、本県の「弱み」を「強み」に変えていく必要があります。

産業構造の変革

デジタル化の遅れや原材料価格の高騰、人手不足などに対応するため、イノベーションによる生産性向上や人材確保、スタートアップなどの新たな力の創出が必要です。

少子高齢化の進行

出生数の減少と高齢化の進行により、社会保障制度の維持や労働力不足、経済規模の縮小などが懸念されています。

グリーンシフトの推進

気候変動による自然災害の激甚化・頻発化に対応するため、脱炭素社会への転換を図る「グリーンシフト」を官民一体で進める必要があります。

全ての県民が活躍できる社会の構築

人口減少やグローバル化に対応するため、女性、高齢者、外国人、障がいのある人、性的マイノリティの方など、多様な人々が活躍できる持続可能な社会の構築が必要です。

交流の拡大

コロナ禍を経て、改めて人と人の繋がりが重要になっています。地域経済の活性化と活力維持に向け、関係人口・交流人口の拡大や、国内外との交流・物流の活性化が必要です。

南海トラフ地震と激甚化する自然災害

地震・津波や激甚化・頻発化する自然災害への備えとして、ハード・ソフト両面からの防災・減災対策と、被災後の県民の命と健康を守る体制整備が急務です。

社会全体の不安感や不確実性が高まる中、近年、物質的な豊かさに加えて「県民が安心して、幸せを実感できること」の重要性が高まっています。このため、県政運営全体に共通する新しい考え方として、県民一人ひとりの幸福実感を重視する「ウェルビーイング」の視点を取り入れ、県民が幸せを感じられる静岡県づくりを推進します。推進にあたっては、行政だけでなく、県民、企業、団体等の多様な主体が効果的に連携することが不可欠です。オール静岡で一丸となり、「幸福度日本一の静岡県」を目指します。

Q ウェルビーイングって何？

A ウェルビーイング (Well-Being)



身体的にも、精神的にも、そして社会的にも、すべてが満たされた状態 (Well-Being) にあることを指します。

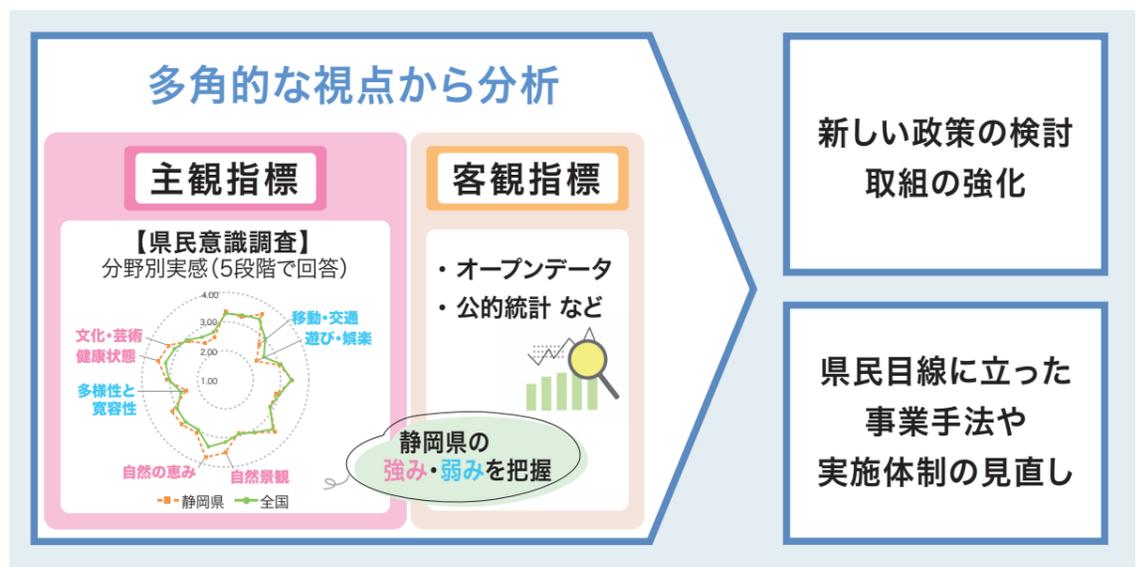
Point ウェルビーイングの視点を取り入れた政策立案

これまで本県では、主に客観指標を用いて政策の進捗とその評価を行うことで取組の充実を図ってきました。しかし、この手法は、政策の進捗管理や着実な進展を図ることができる一方で、政策が県民にどのように捉えられ、どう影響を及ぼしているのかを把握することが困難でした。

そこで今回、ウェルビーイングの視点を取り入れ、県民一人ひとりの幸福実感という「主観的要素」を政策立案の過程に新たに追加します。

具体的には、主観 (ウェルビーイング) 指標を用いた県民意識調査により県民の幸福実感や満足感の現状を把握した上で、客観指標と照らし合わせます。これにより、政策が県民のウェルビーイングの向上にどう影響するのかを分析・検討するとともに、県民の目線に立った政策の充実・強化に繋がります。

なお、このような分析は「他との比較」ではなく、本県におけるウェルビーイングを時系列で向上させることを目指すものです。本県の強みを一層伸ばし、弱みを補うことで、県民が幸せを感じられる静岡県づくりを推進します。



県政運営の基本理念

ローカル・ガバメント・トランスフォーメーション



時代の変化がスピード感を増し、社会課題が複雑化する中、意識・行動を常に見直し、環境の変化に柔軟かつ迅速に対応できる組織への変革を目指す「LGX (ローカル・ガバメント・トランスフォーメーション)」の考えを、県政運営の基本理念に位置付けます。

この基本理念に基づき、5つの「経営の視点」を持って計画を推進します。

- 視点 1 将来世代に対して責任を負う
- 視点 2 最少の経費で最大の効果を挙げる
- 視点 3 新しいことへの挑戦
- 視点 4 スピード感を持った対応 (巧遅より拙速)
- 視点 5 「人」を活かす

政策体系と行政経営

「幸福度日本一の静岡県」の実現に向けた政策を「未来を創る力」「豊かな暮らし」「県民の安心」の3つにまとめました。各政策を有機的かつ連携・横断的に進めることにより、実効性を高めつつ、最大限の効果の発揮を図ります。

I 未来を創る力

本県の強みやポテンシャルを最大限に活用し、未来に生きる世代が意欲的に挑戦できる社会づくりに向けて取り組みます。

II 豊かな暮らし

安心して、健やかに暮らせる毎日こそ、未来への挑戦を支える土台です。県民一人ひとりの心身が健やかで、安定した豊かな生活を、未来へ確実につないでいきます。



III 県民の安心

気候変動に伴う自然災害や感染症の拡大など、有事への備えも欠かせません。平時から、本県の力強い未来と県民の豊かな暮らしの基礎となる、県民の生命や財産などを守る取り組みを進めます。

行政経営

効率的で効果的な行政を展開し、各政策を下支えします。